

平成25年12月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館（青梅市駒木町1-684 TEL0428-23-6859）

青梅市立第三小学校

「一般の人民邑に不学の戸無く、家に不学の人無からしめん事を期す、…」という「学制」が公布されたのは明治5年8月2日（旧暦）のことです。そして、この時の青梅市内の村々は江戸時代と変化なく大体今の町名と同じ状態でした。青梅市が誕生した時にあった青梅町や調布村・霞村というのはもっと後の明治22年に誕生しています。したがって、この学制が公布された当時は村といっても非常に小さい状態でした。野上村などはこの時全戸数18戸でしたので、学校を設立できるような状態ではなかったものと思われます。

これからご紹介していく第三小学校があった旧霞村は、「学制」が公布された時点で13カ村（この時点では師岡を上・下2カ村で数える）もあり、市内の他の地区より村の数がかなり多かったのです。したがって設立された学校の数もたくさんありました。本校である霞尋常高等小学校が火災にあたりしたため資料等が残っておらず詳細は不明なこともあります以下にその概要を記してみます。

明治6年6月の「神奈川県小学創立届」（この時は青梅市域は神奈川県）によると旧霞地区には以下の6校（○印の学校）が設立されたようです。

- 神随学舎（今井）どこに設立したかの記述がないため、場所は不明である。この後、藤橋村と合同で和睦学校を明治9年8月今井村194番地に設立する
- 神教学舎（藤橋）これも記述がないのでどこに設立したかは不明であるが、この後今井村と合同で和睦学校を設立する
- 正梯学舎（谷野）谷野村・木の下村合同で谷野村真浄寺に開設される。その後「協和学校」として塩船より流れる塩船川のほとり字外輪土に洋風2階建ての新校舎を建築して協和学校と称す。
- 耕文学舎（塩船）塩船・大門・野上の三カ村合同で塩船村塩船寺（えんせん寺）に設立されるも協和学校に併合される。
- 明倫学舎（新町）新町村東禅寺に設立される。
- 蒲廬学舎（師岡）上師岡村光明寺に設置する。その後明治10年11月、下師岡村妙光院の前にモダンな校舎を作って蒲廬学校と称す。

この6校の内、今井と藤橋が合併して和睦学校に、また、今寺に郁文小学校（明治17年詳細は不明なるも現在の第三小学校の前身とも云うべき11カ村立の学校）が設立されました。

このようにいろいろと吸収合併が行われ、明治12年教育令が公布され修業年限が変わり、またその翌年に改正教育令が公布されたりと、学校制度も含め、めまぐるしく学校が変わっていったようです。

そして明治22年4月1日には、新しい町村制が施行され霞村が誕生すると、今度は霞村立の学校へと小学校も統廃合が進んでいきました。

最終的には師岡にあった蒲廬学校が、西霞尋常小学校へ、今井の和睦学校が東霞尋常小学校へ、明倫学舎が東霞尋常小学校の分教場へとなくなりました。

そして、谷野にあった協和学校は廃止され（明治45年まで東霞尋常小学校谷野分教場として存続）、新たに校地を霞台（大門の現在地）にもうけて、霞尋常高等小学校^{注1}を設置しました。（明治39年4月

18日) (この4月18日を現在開校記念日としています) これに伴い西霞尋常小学校は霞尋常高等小学校師岡分教場へ、東霞尋常小学校は霞尋常高等小学校今井分教場へ、東霞尋常小学校新町分教場は霞尋常高等小学校新町分教場へと整理統合されていったのです。そして、太平洋戦争中「国民学校令」によって、名前が「霞国民学校」に代わっても基本的には明治39年にできた形が戦後も昭和26年まで踏襲されていきます。

明治22年に霞村が誕生しましたが、その62年後の昭和26年4月1日に青梅町・調布村・霞村の1町2カ村が合併して青梅市が誕生します。第三小学校は元は霞村の学校ですが、青梅町が時代とともに東部へと発展し人口が増えてきたために、青梅学校(現一小)だけでは児童を受け入れられなくなってきていました。青梅町ではやっとのことで都立多摩高校(府立第9高女)の西側に学校用地を確保したのですが、戦後の学校制度改革で中学校を作らなければならなくなり、ここに中学校を作ります(昭和23年4月10日校舎完成、現一中)。そして、人々の意識は市制を布く事へと向かっていきました。昭和26年4月1日青梅町・調布村・霞村の1町2カ村が合併して「青梅市」が誕生します(東京都で5番目の市)。この青梅市誕生の日と同時に現第四小学校が青梅第2小学校(青梅町の2番目の学校)として現在地(東青梅6丁目)に開校します(昭和26年4月1日)。

ここからは小生の推論になりますが、この第2小学校(現四小)がある場所は旧霞村の内です。新しい学校用地の確保に窮していた青梅町は、市制を布く合併の準備と同時に、学校用地確保という命題の解決も同時に進めていたのではないかと思います。とりあえず、青梅町外(霞村の内)ですが、隣接の地(現四小の場所)に青梅町2番目の学校を開校します。

(ここからまた、第三小学校のことに戻りますが)青梅市誕生と同日に青梅市立霞小学校と名称変更します。そして、青梅2小開校一年後の昭和27年9月1日、霞小学校の学区内の根ヶ布地区の児童は青梅2小(現四小)へ編入されます。次いで、市制を敷いて2年半後の昭和28年9月1日に霞小学校は青梅市立第3小学校へと校名変更をします(この時は三小ではなくて3小だった)。また、この1年半後の昭和30年4月1日に近隣の成木・小曾木・吉野・三田の4カ村の合併と同時に1小・2小・3小・4小・5小・6小・7小・・・と通し番号の学校名になりました。また、同時に青梅第2小学校(現四小)を第4小学校とするのに合わせて、第三小学校師岡分教場を第4小学校に編入します。したがって、師岡分教場に通っていた現在の師岡1丁目・2丁目・3丁目・吹上・東青梅地区の子供たちは第4小学校に通うようになりました。このような理由で、この地区に住んでいた昭和23年以前の生まれの方は、「入学は第3小学校だが卒業は第4小学校です。」という方がおられます。

その後、東青梅地区や河辺駅北口地区の区画整理事業によって、広大な畑作地域であった東部地区に住宅が立ち並ぶようになると、次々と新しい学校が開校し、現在の番号名でない学校が増えていきました。そのほとんどが、旧霞村内の区域(現第三小学校の範疇)の中に開校していきました。師岡・野上・河辺・新町地区などの昔の様子を知る者にとっては、今の街並みの発展は想像できないようです。

ちなみに筆者は、昭和44年に第三小学校を卒業していますが、学校の前の豊岡街道を渡るとあとは全て畑で、砂利道の農道だけ。はるか南に新町の御岳神社の森が見えました。体育の時間に、よく砂利道を御岳神社までマラソンをさせられたことなどが懐かしく思い出されます。(車が豊岡街道以外走っていなかったという交通事情であったからこそできたことだと思います。)

参考文献:「昭和8年霞村政調査」、「第三小学校50周年記念誌」、「かすみ」、「青梅市史」

注1 高等科(小学校は初等科と高等科に分かれ、初等科が6年課程、上級の高等科が2年課程でした。初等科を終了すると、2年制の高等科へ進むか、5年生の旧制の中学校へ進むか分かれます。高等科までが義務教育で、今の中学校にあたるかと考えてよいでしょう。)